

## 私たちが助けるかもしれない技術の進歩

リハ工学協会・ケアリフォームシステム研究会・頸損連絡会 合同シンポジウム

日本リハビリテーション工学協会理事・愛媛頸髄損傷者連絡会 鈴木 太

2018年3月3日土曜日、神奈川県厚木市の厚木文化会館で「重度身体障害者の過去・現在・未来」というテーマのもと合同シンポジウムが開催されました。



当事者も多数参加

はじめに『「未来予想～2025年の福祉機器生活～」と現実になった未来』ということで、日本リハビリテーション工学協会・全国頸髄損傷者連絡会の、越澤孝氏の話がありました。頸髄損傷当事者として予想していた、福祉機器の未来と現状についてという内容です。

次に、今後予想されるロボット技術を活用した、未来の暮らしを研究している立場から、パナソニックエイジフリー株式会社の松澤充氏のお話です。『スマートホームの現状と近未来』という題で、近い将来訪れるであろう家電の目指す方向性、その枠を超えて地域包括システムを目指すというものでした。

最後に、トヨタ自動車株式会社から池田幸一氏による『ロボットと暮らす社会の実現に向けて』という題で、ロボットが家庭に溶け込み、人と共生するパートナーロボットとなる社会に向けたお話がありました。

その後、三者とコーディネーターの横浜市総合リハビリテーションセンター西村顕氏を交えて

の、パネルディスカッションが開かれました。会場からの質問にも答えていただき、今世界に向けて製品を開発する日本の大手企業が、今後どのような方向へ進んでいこうとしているのかを、垣間見ることが出来ました。

共催には、かながわりハビリロボットクリニック・神奈川県リハビリテーション病院に加えて、厚木市が共催協力してくれたこともあり、一般市民からの参加もありました。頸髄損傷者連絡会からも10名近い参加、リハビリ関係者、エンジニア、市民、ユーザーと多種多様な立場からの参加があったことが今回の合同シンポジウムの特色だったようです。会場は多くの車椅子ユーザーと参加者でいっぱいでした。



パネリストのみなさん

今回の合同シンポジウムは、2018年8月29日(水)～31日(金)に開かれる『第33回リハ工学カンファレンス in あつぎ』のプレカンファレンスでもありました。リハ工学カンファレンスはこのような関係者が集まり意見を交わしながら交流する場となっています。頸髄損傷者連絡会からも多くの参加と発表があると予想されます。ぜひ興味のある方はお誘いあわせの上、ご参加ください。